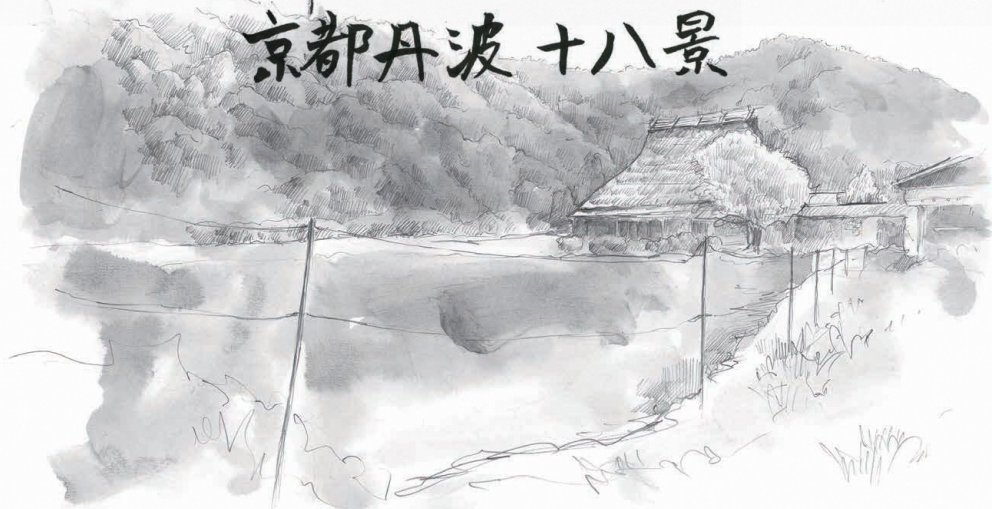


京都山河抄

京都丹波十八景



京都丹波と言われる京都府南丹地域は、
名前は聞いたことがあったが、行ったことはなかった。

その南丹地域に初めて訪れたのが二〇二四年の五月。

そこから約半年間リサーチに訪れた。

初めは地図を片手に色々見て回った。

リサーチが進むにつれ、河川や山の稜線と、

茅葺きの家や田畑など、自然と人間の生活が映る

景色に強い印象が残った。

ある時、農作業の風景を眺めていると、

畑で耕運機を動かしているのは高齢の農夫だった。

山があり、川があり、茅葺きの家があって、田んぼがある。

いま目の前にある昔話に出てくるようなその風景たちは、

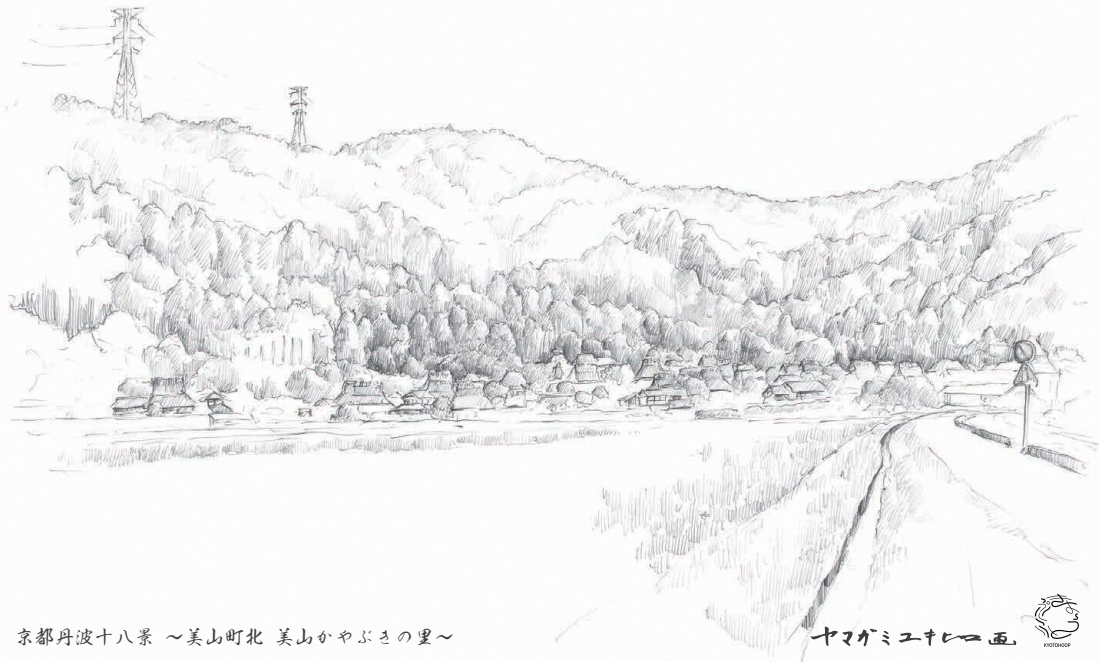
三十年後の日本でも変わらず見られるのだろうか？

「人が入った山は丸くなる。ほったらかすと、とんがて来る」

美山町で出会った、ある人の言葉が印象に残っている。

自然と人工と、その中間。

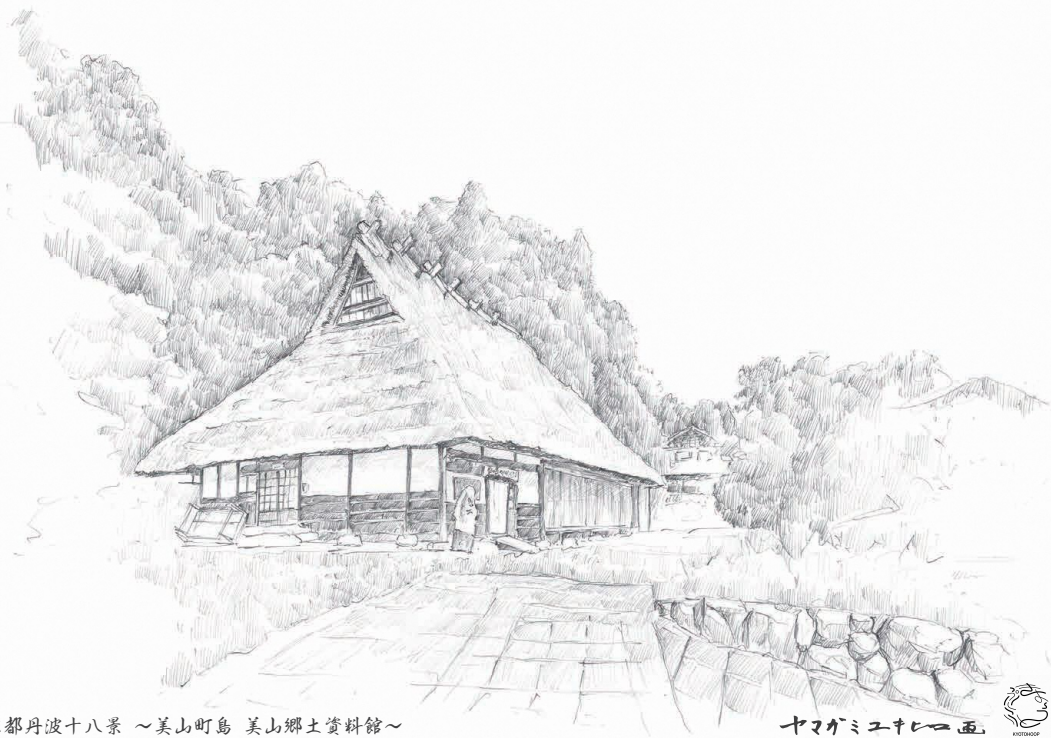
変わったものと、変わらないもの、そして、変わりゆくもの。



京都丹波十八景 ～美山町北 美山かやぶさの里～

ヤマガミユキハ画

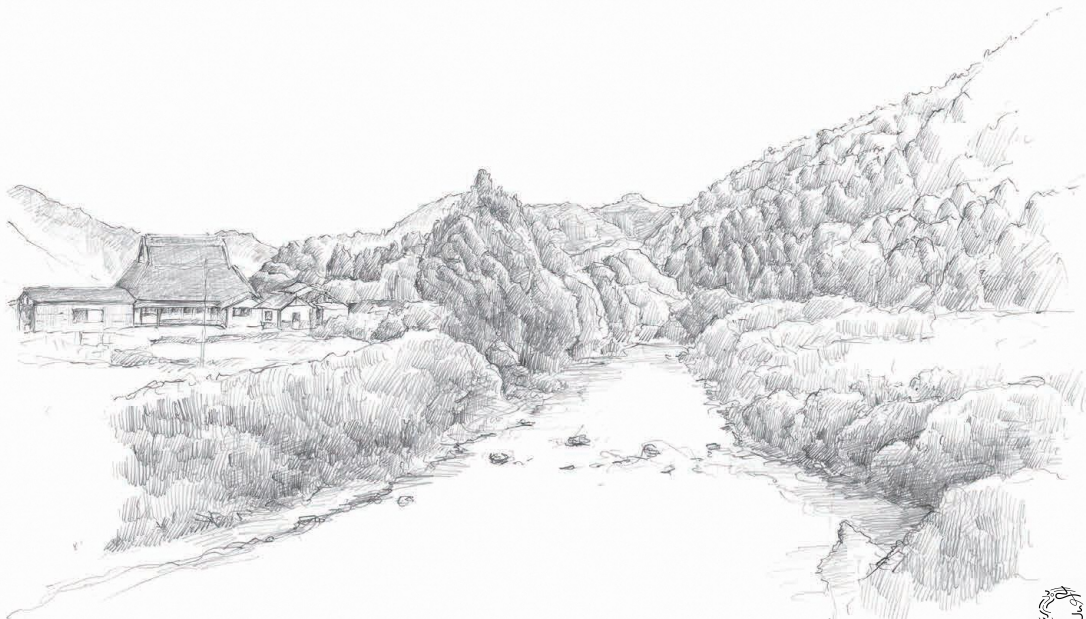




京都丹波十八景 ～美山町島 美山郷土資料館～

ヤマガミユキエ画





京都丹波十八景 ～美山町下吉田～

ヤマガミユキハ画

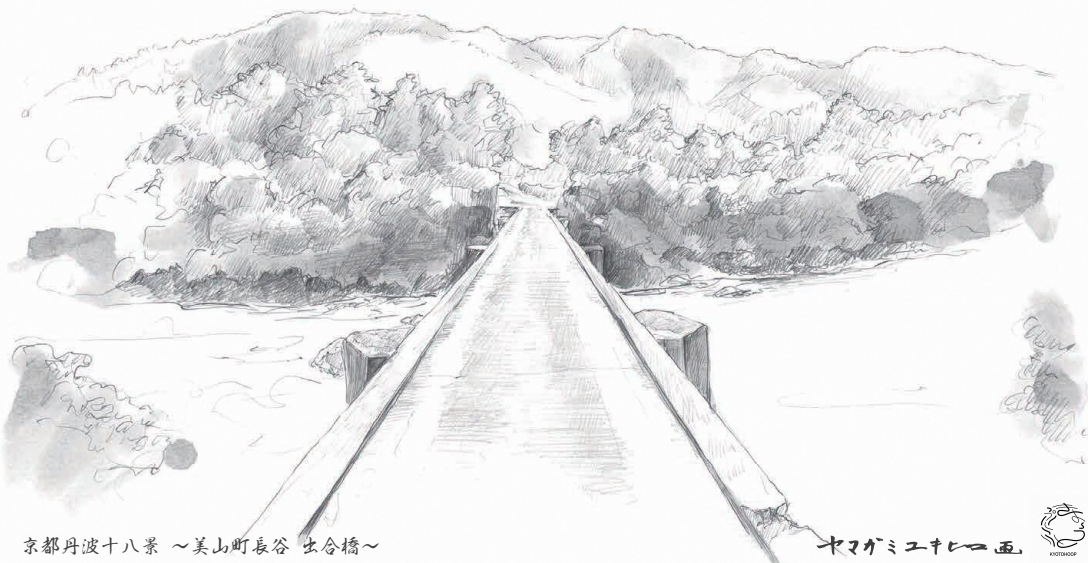




京都丹波十八景 ～美山町榎原 大原神社～

ヤマガミユキの画





京都丹波十八景 ～美山町長谷 出合橋～

ヤマガミユキヒロ画





京都丹波十八景 ～日吉町中 日吉ダム～

ヤマガミユキヒロ画

